

繼續事業評価調書  
【道路事業】

土木局 道路街路課

投資事業評価調書（継続：再評価）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 阪出 裕昭 (副課長兼国道係長 松田 智)	内線	4362 (4374)
事業種目	道路	新規評価年度	H13	現計画	新規評価時点
事業名	道路事業 一般国道426号豊岡 <sup>ハ</sup> 八 <sup>ハ</sup> 入	事業採択年度	H14	総事業費	84億円
		着工年度	H14	内地補償費	28億円
事業区間	とよあかしがみかげ ここのかいちしものちよう 豊岡市上陰～九日市下町	完成予定年度	H24		H24
所在地	同上	進捗率 (内地補償率)		92%(99%)	-
		残事業費		7億円	-
事業の目的			事業内容		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道426号は豊岡市を起点とし、京都府福知山市に至る約50kmの主要幹線道路であるが、豊岡市街地内では、国道312号と重複し、慢性的な交通渋滞が発生している。</li> <li>・公立豊岡病院（3次救急医療機関、災害拠点病院）への円山川右岸や八鹿方面からのアクセスは、JR山陰本線により分断されている。</li> <li>・このため、市道と一体となって本バイパスを整備し、豊岡市街地の外郭環状ネットワークを形成することにより、交通の円滑化を図るとともに、基幹病院へのアクセス向上を図る。</li> <li>・また、本バイパスは、現在、計画中の北近畿豊岡自動車道（仮）豊岡ICへのアクセス機能をも担う。</li> </ul>			道路改築事業 L = 1,480m ( " ) 1 工区 (西側) ; L=840m ( " ) 2 工区 (東側) ; L=370m ( " ) 3 工区 (中央部) ; L=270m ( " ) 【構造規格】3種2級(平地部) 【計画幅員】 1 工区 ; W=6.5(11.0~13.0)m (2車線+片側歩道) 2 工区 ; W=13.0(25.0~27.0)m (4車線+両側歩道) 3 工区 ; W=6.5(15.0)m (2車線+両側歩道) 【計画交通量】9,900台/日(1工区) (10,500台/日) 【現道交通量】13,513台/日(H22センサ) 【負担割合】 国:5.5/10, 県:4.5/10		
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年5月に公立豊岡病院が開院し、平成22年12月からは、新たにドクターカーが導入されるなど、JRにより分断されている病院アクセス道路の早期整備が必要である。</li> </ul> 【新規評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1工区の戸辺羅山トンネルにおいて、地質調査の結果、当初想定していた中硬岩よりも脆い風化岩であったため、トンネル部及び、坑口部で補強工を追加した。また、土質調査の結果、全区間に渡り路床改良、及び2工区において深層改良を追加したことなどから、工事費約12億円を増額した。</li> <li>・1工区において、切土勾配の変更（土質調査により1:0.8 1:1.2に変更）により用地買収面積が増加したとともに、3工区において、地下送電線の規模が想定より大きく、移設補償費が増大したことなどから、用地補償費を約8億円増額した。</li> </ul>				
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗率は、事業費ベースで92%、用地買収は99%である。</li> <li>・1工区は、公立豊岡病院開院(平成17年5月)に向け、平成17年4月に供用した。</li> <li>・2工区は、平成22年3月に供用した。</li> <li>・残区間の3工区は、用地買収が概ね完了。現在、JR山陰本線交差部の工事を推進し、H24年度完了予定。</li> </ul>				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見 及び対応方針 (H13年度新規評価)	【審査会意見】 本事業の規模は大きく、平成16年度の部分供用などにより、段階的に効果を早期発現することは適切な取組である。その際、周辺はJRに分断された地域であり、車が住宅地の細街路に集中せず、円滑な交通の流れを確保するよう努めること。		【対応方針】 公立豊岡院開院に併せた部分供用など、早期事業効果の発現に努めている。なお、住宅地への進入防止としては、道路案内標識を設置し、適切な交通誘導に努めており、苦情等も寄せられていない。		
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地へ流入する通過交通をバイパスに転換させ、市街地内の慢性的な交通渋滞を解消する。</li> <li>・JR山陰本線で分断されている公立豊岡病院へのアクセス道路を確保する。</li> <li>・北近畿豊岡自動車道(仮)豊岡ICへのアクセス道路を確保する。</li> </ul>				
(2)有効性 ・効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成14年6月に都市計画変更された本道路を、市事業(市道豊岡病院線)と合わせて整備することで、効率的に事業効果を発現することが可能である。</li> <li>・費用便益比 B/C = 4.3 (全体) (新規評価時 B/C = 3.2)、B/C = 20.0 (残事業)</li> <li>・事業完了後の現道の管理引継については、豊岡市と協議が整っている。</li> </ul>				
(執行環境状況)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地内の通過交通をバイパスへ転換することで、走行速度を上げ、交通を分散化できることから、大気に与える影響を軽減できる。また、歩道部の透水性舗装により、雨水を地下に還元することができる。</li> </ul>				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイパス全線供用により、公立豊岡病院への救急搬送時間を短縮し、重篤患者の死亡率減少に寄与することからも、3工区(用地買収は概ね完了)の完成が必要であり、また、早期の完成が望まれている。</li> </ul>				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性は事業採択当時と変わっておらず、未供用区間は3工区のみで残事業もわずかであること、また、当該区間の早期供用を望む地域からの要望は依然として強いことなどから、継続して早期に事業を完了する必要がある。</li> </ul>				
再評価 の結果	継続	左の理由			

## 事業進捗状況概要図（継続：再評価）

事業名	道路事業	路線・河川名	一般国道426号豊岡バイパス
	<b>事業進捗状況・予定</b>	<b>整備効果</b>	
全体	<b>H14～24年度【事業費＝84億円】</b> 道路改良L＝1,480m（うちトンネル部 L＝311m） 用地買収A＝47,869㎡、物件補償 94件	段階的に部分供用することにより、市街地の渋滞緩和や公立豊岡病院へのアクセス向上など、早期事業効果発現を図った。	
事業採択～H23まで	<b>1工区 H14～16年度【事業費＝42億円】</b> 道路改良L＝840m（うちトンネル部 L＝311m） 用地買収A＝32,119㎡、物件補償 28件 <b>2工区 H17～21年度【事業費＝14億円】</b> 道路改良L＝370m 用地買収A＝10,146㎡、物件補償 52件 <b>3工区 H21～23年度【事業費＝21億円】</b> 道路改良L＝20m（JR軌道部） 用地買収A＝5,604㎡、物件補償 14件		
今後1年間（予定）	<b>3工区 H24年度【事業費＝7億円】</b> 道路改良L＝250m 用地買収A＝220㎡		

# 一般国道426号 豊岡BP周辺航空写真

至鳥取

至宮津

北近畿圏国土輸送道

市道上陰戸牧線

JR豊岡駅

豊岡市役所

市道豊岡病院線  
H12  
H15

公立豊岡病院  
(H17年5月開院)

円山大橋

円山川

至福知山

道路-3

(仮)豊岡IC

至姫路

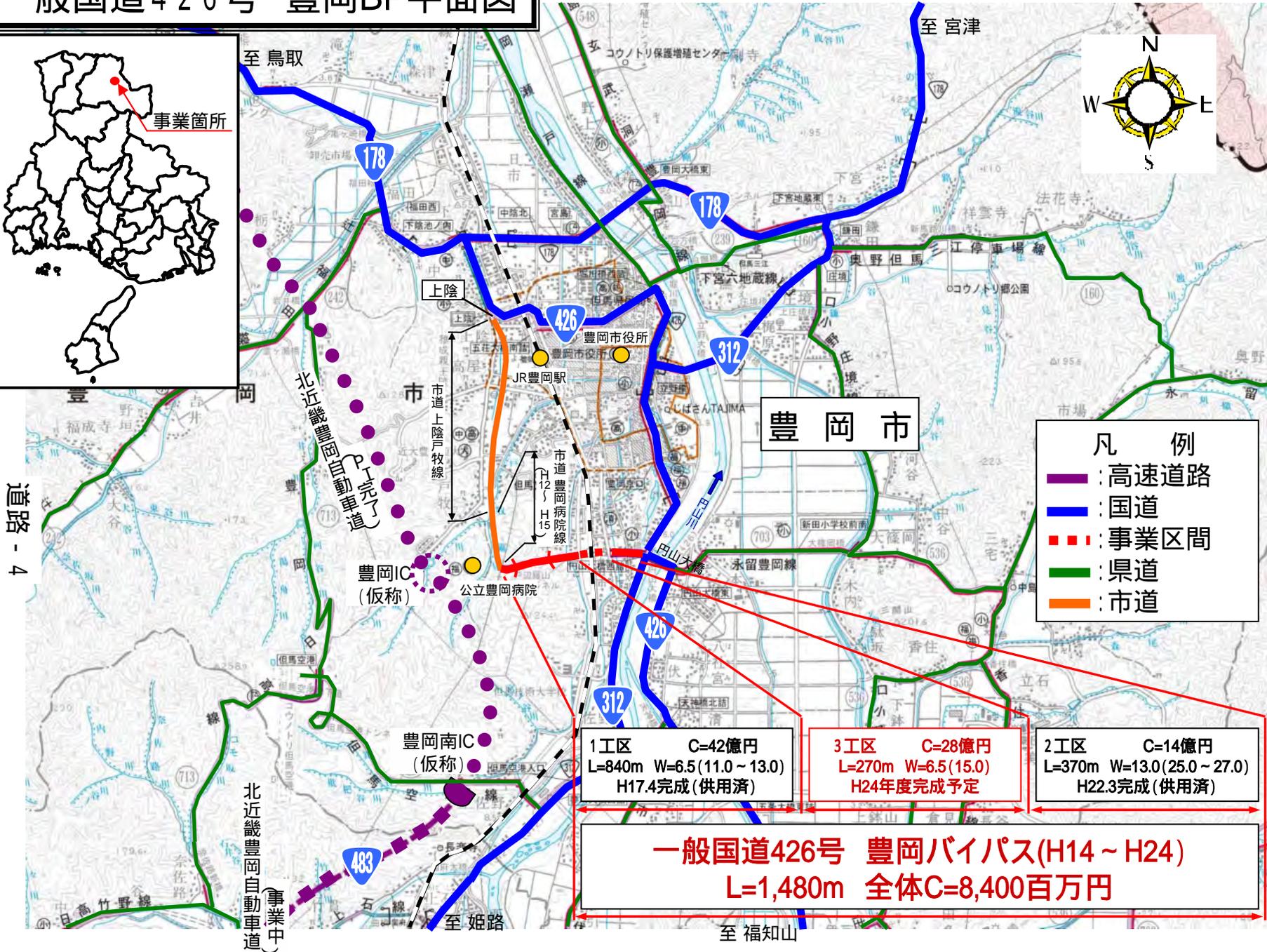
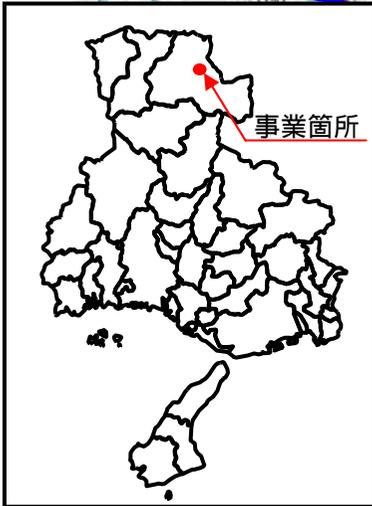
1工区 L=840m W=6.5(11.0~13.0) H17.4完成(供用済)	3工区 L=270m W=6.5(15.0) H24年度完成予定	2工区 L=370m W=13.0(25.0~27.0) H22.3完成(供用済)
--	--	---

**一般国道426号 豊岡バイパス(H14~H24)**  
L=1,480m 全体C=8,400百万円



- 凡例
- : 高速道路
  - : 国道
  - : 事業区間
  - : 市道

# 一般国道426号 豊岡BP平面図



- 凡 例
- : 高速道路
  - : 国道
  - - - : 事業区間
  - : 県道
  - : 市道

1工区 C=42億円  
L=840m W=6.5(11.0~13.0)  
H17.4完成(供用済)

3工区 C=28億円  
L=270m W=6.5(15.0)  
H24年度完成予定

2工区 C=14億円  
L=370m W=13.0(25.0~27.0)  
H22.3完成(供用済)

**一般国道426号 豊岡バイパス(H14~H24)**  
**L=1,480m 全体C=8,400百万円**

道路 - 4

北近畿豊岡自動車道(事業中)

至 福知山

至 鳥取

至 宮津

市道上陰戸牧線  
市道豊岡病院線

豊岡IC(仮称)  
公立豊岡病院

豊岡南IC(仮称)

豊岡市

北近畿豊岡自動車道  
PT(完成)

豊岡IC(仮称)

豊岡南IC(仮称)

1工区 C=42億円  
L=840m W=6.5(11.0~13.0)  
H17.4完成(供用済)

3工区 C=28億円  
L=270m W=6.5(15.0)  
H24年度完成予定

2工区 C=14億円  
L=370m W=13.0(25.0~27.0)  
H22.3完成(供用済)

**一般国道426号 豊岡バイパス(H14~H24)**  
**L=1,480m 全体C=8,400百万円**

道路 - 4

北近畿豊岡自動車道(事業中)

至 福知山

至 鳥取

至 宮津

市道上陰戸牧線  
市道豊岡病院線

豊岡IC(仮称)  
公立豊岡病院

豊岡南IC(仮称)

豊岡市

北近畿豊岡自動車道  
PT(完成)

豊岡IC(仮称)

豊岡南IC(仮称)

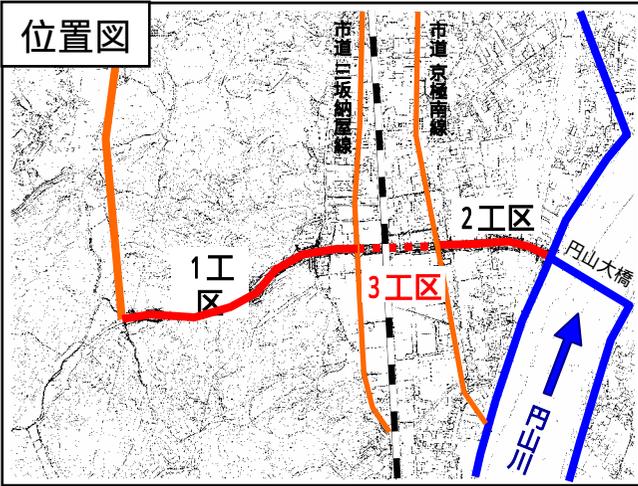
1工区 C=42億円  
L=840m W=6.5(11.0~13.0)  
H17.4完成(供用済)

3工区 C=28億円  
L=270m W=6.5(15.0)  
H24年度完成予定

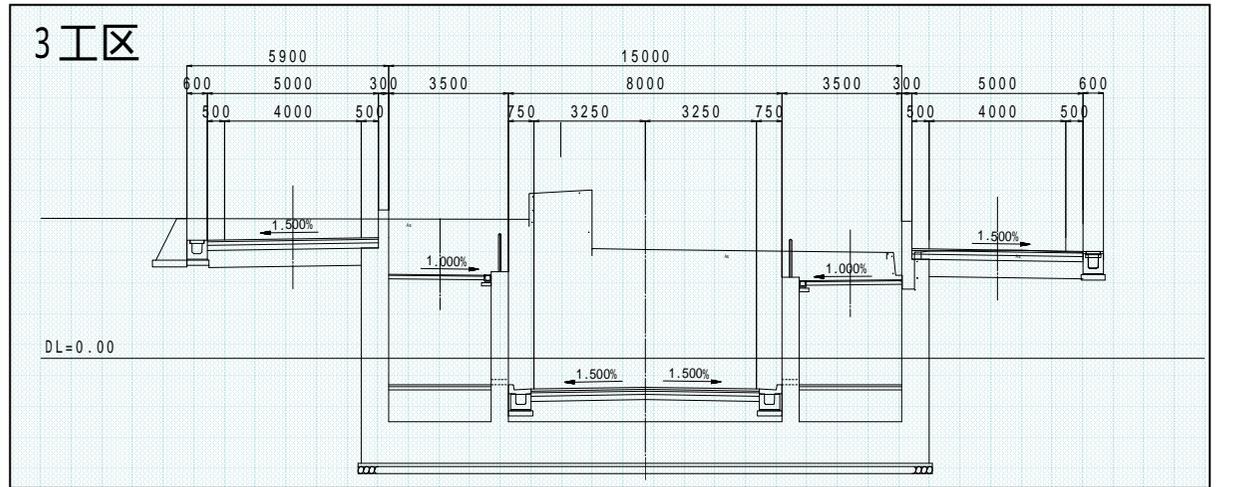
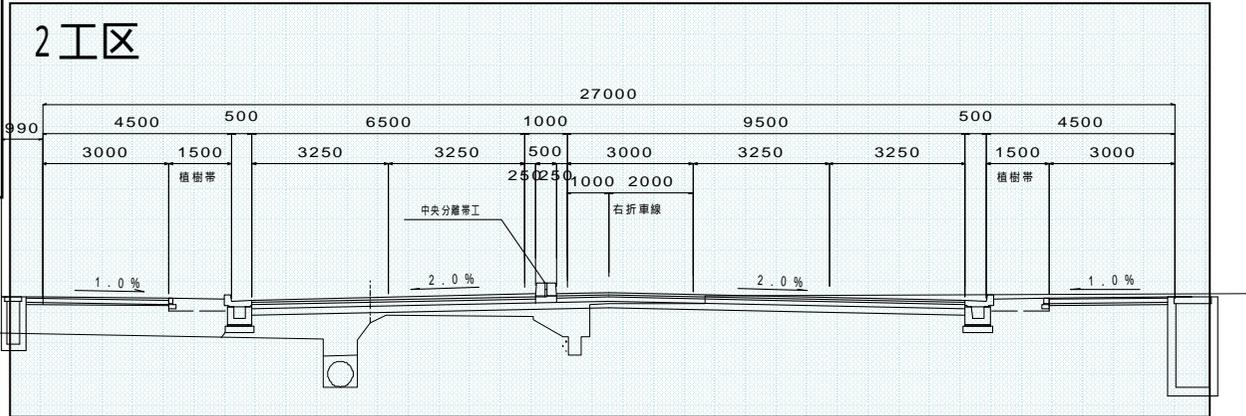
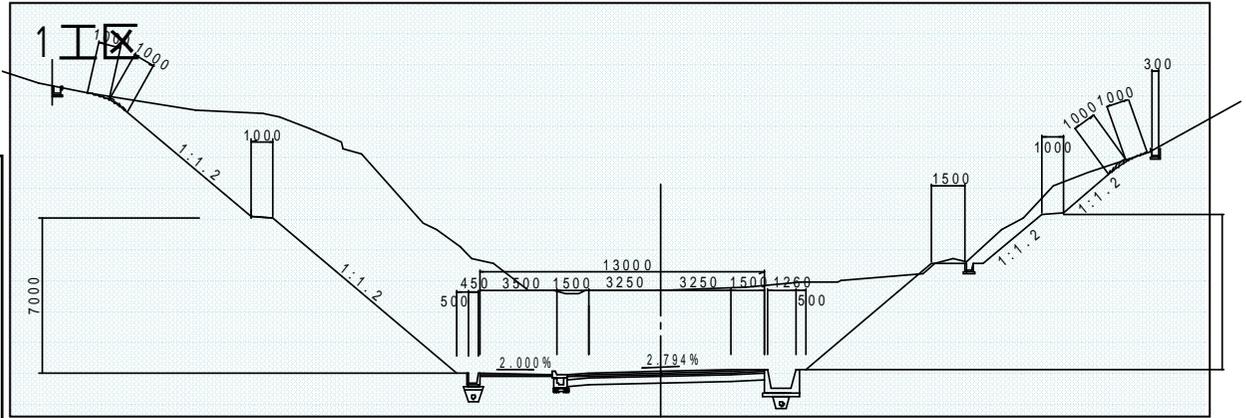
2工区 C=14億円  
L=370m W=13.0(25.0~27.0)  
H22.3完成(供用済)

**一般国道426号 豊岡バイパス(H14~H24)**  
**L=1,480m 全体C=8,400百万円**

# 標準横断図



道路 - 5



# 進捗状況

1工区(戸辺羅山トンネル)



1工区(妙楽寺交差点)



道路 - 9

公立豊岡病院

1工区 L=840m  
H17.4完成(供用済)

2工区 L=370m  
H22.3完成(供用済)

一般国道426号豊岡バイパス L=1,480m  
C=8,400百万円 H14~H24

- 【1工区】平成17年4月供用済
- 【2工区】平成22年3月供用済
- 【3工区】H23年8月現在、用地買収は概ね完了  
(H24年度前半契約完了予定)  
JR交差部の工事を進めており、H24年度完成予定。

3工区 L=270m  
H24年度完成予定

2工区供用済区間



凡例

- : 国道
- - - : 事業区間
- : 市道

至宮津

至姫路

至福知山

戸辺羅山トンネル

市道三坂納屋線

JR山陰本線

市道京極南線

円山大橋

312

426

# 現道の状況

写真 (撮影日: H23年8月15日)



写真 (撮影日: H23年8月15日)



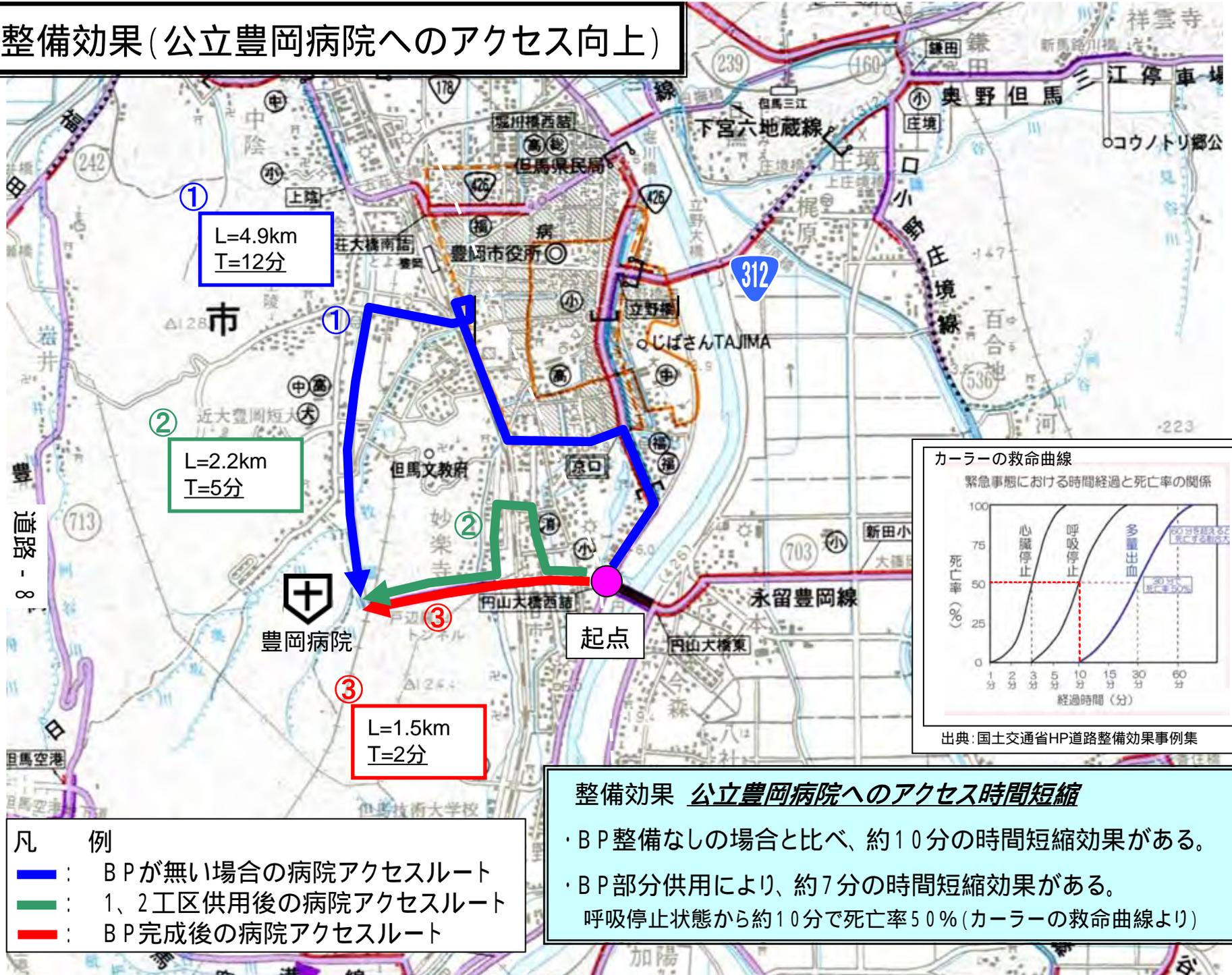
【混雑箇所】  
立野橋交差点  
(最大滞留長: L=900m)

【混雑箇所】  
豊岡京口交差点  
(最大滞留長: L=600m)

一般国道426号 豊岡バイパス(H14~H24)  
L=1,480m 全体C=8,400百万円

- 凡 例
- : 国道
  - ■ : 事業区間
  - : 県道
  - : 市道

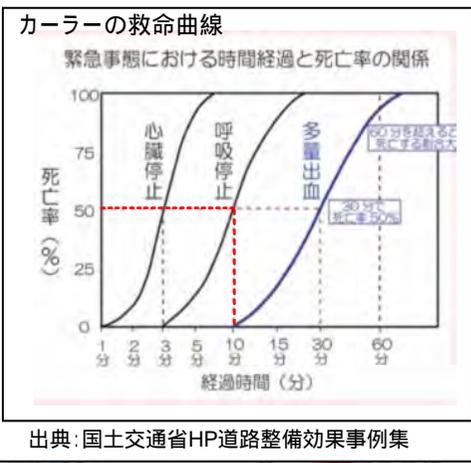
# 整備効果 (公立豊岡病院へのアクセス向上)



①  
L=4.9km  
T=12分

②  
L=2.2km  
T=5分

③  
L=1.5km  
T=2分



- 凡 例
- : B Pが無い場合の病院アクセスルート
  - : 1、2工区供用後の病院アクセスルート
  - : B P完成後の病院アクセスルート

**整備効果 公立豊岡病院へのアクセス時間短縮**

- ・ B P整備なしの場合と比べ、約10分の時間短縮効果がある。
- ・ B P部分供用により、約7分の時間短縮効果がある。
- 呼吸停止状態から約10分で死亡率50% (カーラーの救命曲線より)

# 公立豊岡病院

道路 - 9



公立豊岡病院 (H17年5月開院)



ドクターカー (H22年12月運行開始)

## ドクターカー

ドクターヘリが悪天候などで運航できない場合に、医師と看護師を救急現場に運ぶことを目的とする。

ドクターカーは、平成22年12月5日に公立豊岡病院に配備され、運行を開始した。

また、平成23年10月上旬をめぐりに、運行方法をヘリとの併用に切り替え、さらに、12月からは運行時間を拡大する。

ドクターカー出動状況 (台)

平成22年度 (H22.12.5 ~ H23.3.31)	平成23年度 (H23.4.1 ~ H23.9.1現在)
90	49

# 1 実施工程表

種 別	工 種	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24
第1工区 L=1,480m	用地補償	■	■									
	道路改良		■	■								
第2工区 L=370m	用地補償				■	■						
	道路改良				■	■	■	■	■			
第3工区 L=270m	用地補償								■	■	■	
	道路改良										■	■

■ : 当初計画 (H14)

■ : 実施・計画

## 2 事業効果について

### (1) 費用対効果

#### 便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
道路	走行時間短縮便益 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用 - 整備有りの走行時間費用 走行時間費用: (交通量 × 走行時間) × 時間価値原単位 × 365日
	走行経費減少便益 走行速度の向上や走行距離の短縮により、燃料費などが節減される便益	整備無しの走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費: (交通量 × 距離) × 走行経費原単位 × 365日
	交通事故減少便益 中央分離帯の設置や通過する主要交差点数の減少により、交通事故が減少する便益	整備無しの事故損失額 - 整備有りの事故損失額 事故損失額: (交通量 × 距離 × 交差点以外の事故損失原単位 + 交通量 × 主要交差点数 × 交差点部事故損失原単位)

#### 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C	
		便益額 (百万円)			総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)		
道路	一般国道 426号 豊岡ハイパス	全体事業費	走行時間短縮便益	35,001	時間短縮: 19.3分 14.7分 (円山大橋西詰 ~上陰交差点) 計画交通 9,900台/日	9,171	9,027	144	4.3
			走行経費減少便益	3,736					
			交通事故減少便益	870					
			計	39,607					
	残事業費	走行時間短縮便益	11,230	時間短縮: 15.9分 14.7分 (円山大橋西詰 ~上陰交差点) 計画交通 9,900台/日	656	639	17	20.0	
		走行経費減少便益	1,371						
		交通事故減少便益	490						
		計	13,091						

### (2) 費用対効果に含まれない効果

公立豊岡病院(3次救急医療機関、災害拠点病院)へのアクセス時間短縮による、救急医療体制の確保  
 中心市街地内と周辺地域との連絡強化による、地域間交流の促進  
 北近畿豊岡自動車道(仮)豊岡IC(計画中)と中心市街地の連絡による、地域産業の活性化等  
 市街地内幹線道路沿道の環境改善